

ほっかいどうの社会保障

2019年10月23日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

道民の命と健康が守られる医療体制を！

地域医療と公立病院を守る北海道連絡会は、10月23日、厚生労働省が地域医療構想(ベッド削減)を進めるために、再編・統合の再検証を求める医療機関を公表(9月26日)したことに抗議し、その撤回と道民の命と健康が守られる医療体制を求めて北海道に要請しました。

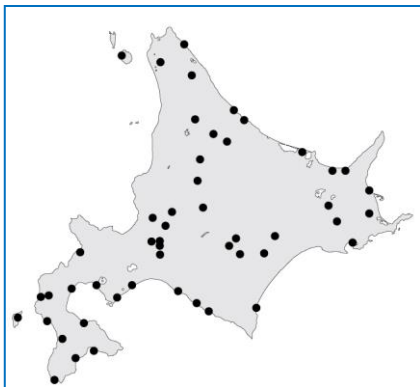
道議会の地域医療に関する国への意見書と同じ立場

道は、「機械的に再編統合を決定するものでない」と説明し、道議会が10月4日全会一致で採択した下記の国への意見書と同じ立場と表明。一方、「従事者確保とともに人口減少を考えた場合、その医療機関の規模や機能を現在のまま維持していくことが難しいので、各圏域で議論してもらっている」と説明。同会は、今でも必要な医療が受けられない実態がある。改めて、その地域に必要な医療提供体制の確保が必要と要請しました。



- 「地域医療構想に関する意見書」(医療機関が再検証した内容については地域の意向として尊重し、結論を得る時期についても地域の実情を踏まえて柔軟に対応することを強く要望する)
- 「診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書」(1 診療報酬の引き下げは行わず、適正な水準を確保すること。2 公立病院の運営に対する地方財政措置の充実・確保を図ること。3 地域の医療需要を満たす医療提供体制を構築すること。4 医師・看護師等医療人材の確保を図ること)

道内 54 医療機関が対象 地域医療を守る運動を



厚労省は、高度急性期と急性期の病床に特化し、2017年度の疾病ごとの手術件数などのデータを基に、機械的に「診療実績が特に少ない」「類似の診療実績が近接している」の二つの項目で、再編・統合の再検証の医療機関を公表しました。

北海道は54の医療機関(18医療圏・49市町村)が対象となりました。その多くがその市町村で唯一の病院で、救急医療を担っています。住民の命に取って欠かせない医療機関です。

同会は、①市町村議会でも道議会と同様の国への意見書を採択すること。②自治体・病院から、地域医療構想と自治体への影響を説明してもらうこと。③2次医療圏ごとに、地域の実態や要望、病院の役割を出し合う集会、懇談会を開き、地域医療構想調整会議や行政に働きかけること(地域医療・病院を守る住民組織、市町村、病院とも連携も)などの地域医療を守る運動を呼びかけています。

患者・地域住民から、心配や怒りの声が続々 職員からも

54医療機関へのアンケート

同会は、各圏域の地域医療の深刻な実態を明らかにし、地域に必要な医療提供体制をつくるために、国や北海道への働きかけを進める上で、今回、再編・統合の再検証の対象になった54の医療機関すべてにアンケートと懇談を申し入れました。

アンケートの項目は、①今回の厚生労働省の再編・統合案についての意見、②自治体、病院職員、患者・住民から寄せられた声、③自治体、病院職員、患者・住民への対応・説明、④地域の当面の医療的課題、長期的な地域医療のあるべき姿、⑤当団体との懇談について。

寄せられたアンケートから

- 納得がいかない (中小病院が地域医療の確保のために必要として行っている医療が評価されず、地域の実情が反映されていない)
- 地域住民からは数多くの怒りの声。当院の存続を心配する声。職員から心配する声。
- 公表内容にとらわれず、圏域として具体的な議論と検討をすすめていく。